4/5/1
DIALOG(R)File 351:Derwent WPI
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

003171072

WPI Acc No: 1981-31614D/198118

Heat treatment of knitted or woven fabrics - of polyester filament yarn

for improved dimensional stability Patent Assignee: TOYOBO KK (TOYM)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No Kind Date Applicat No Kind Date Week JP 56026061 A 19810313 198118 B

Priority Applications (No Type Date): JP 7998788 A 19790801

Abstract (Basic): JP 56026061 A

Knitted or woven fabrics prepd. (in part) from a copolymerised polyester filament yarn of ethylene terephthalate series are heated with wet heat of 90-120 deg.C or dry heat of 130-150 deg. C. The polyester is prepd. by copolymerising 1.5-2.5% mol. 5-Na sulpho-isophthalate component and 6.0-12.0% mol. isophthalic acid component per total acid component.

Prepn. of the polyester is carried out by interesterifying a lower alkyl ester of terephthalic acid, isophthalic acid, 5-Na sulpho-isophthalate with ethylene glycol in the presence of pref. catalyst followed by polycondensed. As the stabiliser, alkali metal cpd. is pref. used. Spinning of the fibre is not limited but pref. heat setting is effected at 12-160 deg.C at the final stage of drawing. The resulting filament yarn is opt. false-twisted before dyeing, knitting or weaving.

The heat-treated knitted or woven fabrics have excellent dimensional stability.

Title Terms: HEAT; TREAT; KNIT; WOVEN; FABRIC; POLYESTER; FILAMENT; YARN;

IMPROVE; DIMENSION; STABILISED

Derwent Class: A23; F07

International Patent Class (Additional): D01F-006/62; D06C-007/02

File Segment: CPI

(9) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭56-26061

Int. Cl.³
 D 06 C 7/02
 D 01 F 6/62

識別記号

庁内整理番号 6936-4L 6768-4L 砂公開 昭和56年(1981) 3月13日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 3 頁)

ூポリエステル長繊維糸使い編織物の熱処理方法

2)特

願 昭54-98788

❷出

願 昭54(1979)8月1日

砂発明:

宮本宗一

高槻市天王町20番7号

⑫発 明 者 加藤康夫

滋賀県滋賀郡志賀町高城177番 地の1

⑫発 明 者 天城義弘

神戸市垂水区玉津町高津橋994

番地17

①出 願 人 東洋紡績株式会社

大阪市北区堂島浜二丁目2番8

号

明 紺 響

1. 芸明の名称

ポリエステル長線維条使い蓄機舶の無処理 方法

8. 特許請求の範囲

全酸成分に対し、1.5~3.5 セルギの5~5トリウムスルホイソフタル酸成分を共宜合してなるエナレンテレフタレート系共富合ポリエステルの長級維糸を一部または全部に使用して組織をを振り0℃~130℃、あるいは乾熱130℃~150℃の機能変することを特象とするポリエステル長級維条使い顕微的の熱処理方法。
5. 毎明の側細な説明

本発明は、染めむらが起き着く。 具合いが 良好で低温微熱セットを行なつたにもかかわらず、 すぐれた寸法安定性を有するポリエステル長繊維 、・糸使い編織物の熱処理方法に関する。

最近の天然繊維指向にとも左つて、ポリエチレ

本発明者ちは、観電研究の結果、ポリエチレンテレフタレート系線維が本来有している耐摩託性やイージーケア性などのすぐれた性能を保持しつい、すぐれた事美性を有し、且つ、染色性がよく、任温温熱セットが容易に行ない得るポリエステル長線線未使い瞬線物の熱処理方法を見い出した。すなわち、本発明は、全職成分化対し、1.5~8.5 モル系の5-ナトリウムスルホイソフタル製

- 2

#MM656- 26081(2)

双分かよび 6.0~12.0 モル系のイソフタル酸収分を共産合してなるエチレンテレフタレート系共 直合ポリエヌテルの長繳維系を一部または全部に 使用して組織攻した機嫌物を運熱 9 0 ℃~1 2 0 ℃、または乾熱180℃~150℃で熱処選する ことを特徴とするポリエステル長機維糸使い緩緩 物の熱処理方法である。

本発明に用いられるポリエステルは、全酸収分
の1.5~2.5 モル系の 5 - ナトリウムスルルイソファル酸成分をおよび 6.0~12.0 モル系のイソファル酸成分を共宜合したポリエチレンテン 三十を用いては、テレファル酸、イソファン 6.5 で関しては、テレファル酸、イソファル酸・イソファルを発展に関いたエチレングリコールとを適合するエステルとエチテルをより、直輸を大力を表現しても特に制限はないが、安定して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対しでは、1000年間に対しで、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対しでは、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対して、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間に対しでは、1000年間

つや情し刺としての酸化チャンなど各種添加刺を用いても本発明の効果に悪い影響を与えない。 該 ボリェステルは通常の方法により紡糸される。 紡糸条件, 方法に関しては特に側限された状態で延伸する みまに して巻き取つた後、延伸工程にかける 万法など 種々の方法が挙げられ、一般では、近伸の最終段階または延伸完成後、180℃で160℃で無セットされることが確ましい。

例えば、ホットローラー、ホットプレート型転伸機の場合、延伸量終更収工程であるホットプレート圏度を1 2 0 t~1 6 0 tとする。

このようにして得られた長機維糸は、染色工程をあいは網練工程の前に、仮数加工されてもよい。この際の仮据温度は180で~180でが好ましい。この場合、ファーストフィード比は、オーバッ・フィード倒で1~65種変とするのが驚ましい。 数長機維糸または該加工糸は必要に応じて糸の状態で染色される。その際の染色温度に、分散染料

の場合、110で~180で、塩基性染料の場合は105℃~180℃が驚ましい。また、該長線 維糸は、単独で、繊維されてもよいし、あるい鉄化 他の合図機能や天然職種の長線維糸または紡鉄糸 と復用されて調機されてもよい。 護用する場合に 両者を引き指えあるいは交換した方が効果的でで あが、仮換肌をで混用してもよい。その際の復用 率は、本発明におけるがリエステル酸線系が全界 の205以上となることが発生しい。また、該集 をの時の加工条件は終に制限されない。

色観又は白度が得られる。得られた樹織物は適常 この状態で寸法を安定するために熱処理がなされ る。しかし、横編分野で行われるように、繋斬、 義製後に熱処理がなされてもよい。

本発明において、この熱処理条件は一つの要件 である。前記共重合ポリエステルは、共直合成分 が各々単独に用いられた公知の共重合物から予測 される程度の敵点と全く予測されない程低い結晶 性を有し、との性質は、適当な無処理により標準 物具合いに適当に変化籤定を与えるのである。 即ち。前述した如きポリエステル長職権糸あるい は雇用来を1部または全部に使用した耐趣物を最 後の仕上げ工程で匿熱90m~180℃あるいけ 乾熱180℃~180℃で熱処理セットすると、 該領維物は、客易に異合いの変化固定が行をわれ、 従来のポリエステル系繊維共を用いた耐薬物と比 **取して、非常にすぐれた具合いを有する繊維物が** 得られる。熱処理セットの方法に関しては特に制 段はないが、道常、常圧下での煮気の噴射もしく 放修水中で行われる。 複射前の萧気は100℃以

上に加熱されているのが整ましい。また、蘇督織 物は、上配熱処理工程の前もしくは後に起毛処理 が行われてもよい。

以上の方法により製造されたポリエステル是機権条便い機能物は、従来のポリエステル条使い機能物では全く不可能であつた乾熱 1 8 0 ℃~1 5 0 ℃、または温熱 9 0 ℃~1 2 0 ℃という任益で熱処理セットが可能であり、時に、従来ポリエステル機能物では不可能とされていた任益 20 熱セットが可能となつたことによって、ポリエステル機能物の熱処理による硬化を防ぎ、良好な風合いを有するとともに、近年ますまず関連視されているエネルギーの節減にも有効である。

美篶例 1.

イソフタル酸収分11モルが、5 - ナトリウム スルホイソフタル酸収分1.6 モルがを共直合した ポリエチレンテレフタレートを用いて、温度285 でで紡糸し、ホットローラー温度75℃、ホット ジャレート温度160℃の条件で8.6倍に延伸して 単来デニール8デニールの延伸糸を得た。この米

- 7 -

たて仮数した後、110℃で染色を行いあらかじめ、100で変色を行いあらかと、100で変色を行いると交換方向を発色したが影で枠に入れ、100℃のスチームアイロンのスチームで10秒セットした。その後、枠をはずしたが、枠をはずしても完全にセットされていた。得られたベストは非常にソフトを設合いを有しており、JIS-L-0864による洗たく5回後の収縮率は85以下でもり、異合いの変化は見られなかつた。

比較例

1 : 1

実施例1の共富台ボリエチレンテレフタレートの代わりにボリエチレンテレフタレートを用いて、実施例1と同様の方法でベストを作製した。 誤ベストは染色が十分ではなく、また、セットも完全にはなされず、欄むらがそのまま表り、風合いも硬く、製品として不良のものであつた。

特許出顧人 東洋紡績株式会社

特開8856- 26061(3)

を温度150℃で仮数加工し、110℃で染色した。この染色糸を800デニールに合糸し、複響後、ペストを作成した。該ペストを複方向に45かほした状態で神に入れ、100℃のスチームアイロンのスチームで10秒セットした。神をはでした状態でも完全にセットされ、響目も完全に整つていた。JIS-L-0844に従い5回洗たくを行なつた後の収縮率は85以下でもり、実用的に問題なかつた。また、先たく前後の履合いも変化なく良好でもつた。

美施例 2.

イソフタル館収分10モル系、 b - ナトリウムスルホイソフタル館収分1.6 セル系を共富合したポリエチレンテレフタレートを常任に従って紡糸園度 2 8 5 でにて紡糸し、ホットローラー運度 1 5 で、ホットプレート温度1 4 0 でにて 8.6 倍に低伸し、単糸デニール8 デニール、フィラメント数 4 8 のトータルデニール1 5 0 デニールの延続を写た。この近伸糸の強度は 4.0 9 / d、伸続を写た。この近伸糸の強度は 4.0 9 / d、伸続では 2 8 % でもつた。該フィラメントを 1 5 0 で

- 8 -

Japanese Kokai Patent Application No. Sho 56[1981]-26061

Job No.: 360-93078

Translated from Japanese by the Ralph McElroy Translation Company 910 West Avenue, Austin, Texas 78701 USA

JAPANESE PATENT OFFICE PATENT JOURNAL (A)

KOKAI PATENT APPLICATION NO. SHO 56[1981]-26061

Int. Cl.³:

D 06 C 7/02

D 01 F 6/62

Sequence Nos. for Office Use:

6936-4L

6768-4L

Filing No.:

Sho 54[1979]-98788

Filing Date:

August 1, 1979

Publication Date:

March 13, 1981

No. of Inventions:

1 (Total of 3 pages)

Examination Request:

Not filed

HEAT TREATMENT METHOD OF KNIT/WOVEN FABRIC MADE OF POLYESTER LONG FIBER YARNS

Inventors:

Soichi Miyamoto

20-7 Tenno-cho, Takatsuki-shi

Yasuo Kato

177-1 Taki, Shiga-cho, Shiga-gun,

Shiga-ken

Yoshihiro Amagi

994-17 Takatsubashi, Tamatsu-cho,

Tarumi-ku, Kobe-shi

Applicant:

Toyobo Co., Ltd.

2-2-8 Dojimahama, Kita-ku,

Osaka-shi, Osaka-fu

[There are no amendments to this patent.]

Claim

A heat treatment method of knit/woven fabric made of polyester long fiber yarns, characterized by the fact that for the knit/woven fabric prepared by knitting/weaving yarns partially or entirely made of long fiber yarns of ethylene terephthalate-based copolymer polyester long fiber yarns prepared by copolymerization of 5-sodium sulfoisophthalic acid component in amount of 1.5-2.5 mol% with respect to the total acid component and isophthalic acid component in amount of 6.0-12.0 mol% with respect to the total acid component, heat treatment is carried out as wet heat treatment at 90°C to 120°C, or as dry heat treatment at 180°C to 150°C.

Detailed explanation of the invention

This invention pertains to a heat treatment method of knit/woven fabric made of polyester long fiber yarns characterized by the fact that dyeing unevenness hardly occurs, the hand is good, and although low-temperature wet heat setting is carried out, it still has excellent dimensional stability.

While there is a trend toward natural fibers recently, polyethylene terephthalate-based fiber yarns are mixed with various types of natural fiber yarns for use as a feed material. However, polyethylene terephthalate-based fiber yarns have a poor dyeing property, and in the last finishing step, a very high temperature is needed, and it is impossible to perform setting by means of wet heat treatment. On the other hand, when high-temperature setting is performed for the natural fiber yarns mixed in it, hardening takes place. As a result, the hand of the two types of fibers degrades. Also, even when they are not mixed for use, polyethylene terephthalate-based fiber yarns themselves have a poor hand, and the appearance is nonattractive. In other words, the fashionability is poor, and its application range is limited.

In order to solve the aforementioned problems, the present inventors have performed extensive research. As a result of this research, a heat treatment method of knit/woven fabric made of polyester long fiber yarns was developed and it is characterized by the fact that while the high wear resistance, easy care property, and other excellent characteristic properties of polyethylene terephthalate-based fibers are maintained, it has excellent appearance, good dyeing property, and is easy to perform low-temperature wet heat setting.

This invention provides a method characterized by the fact that for the knit/woven fabric prepared by knitting/weaving yarns partially or entirely made of long fiber yarns of ethylene terephthalate-based copolymer polyester long fiber yarns prepared by copolymerization of 5-sodium sulfoisophthalic acid component in amount of 1.5-2.5 mol% with respect to the total acid component and isophthalic acid component in amount of 6.0-12.0 mol% with respect to the total acid component, heat treatment is carried out as wet heat treatment at 90°C to 120°C, or as dry heat treatment at 180°C to 150°C.

The polyester used in this invention has to be polyethylene terephthalate prepared by copolymerization of 5-sodium sulfoisophthalic acid component in amount of 1.5-2.5 mol% with respect to the total acid component and isophthalic acid component in amount of 6.0-12.0 mol% with respect to the total acid component. However, there is no special limitation on the polymerization method. For example, one may adopt the following methods. In one method, polycondensation is carried out after transesterification of terephthalic acid, isophthalic acid, lower alkyl ester of 5-sodium sulfoisophthalic acid, and ethylene glycol in the presence of an appropriate catalyst. In another method, polycondensation is performed after dehydration esterification of various acids and ethylene glycol. There is no special limitation on the type of catalyst. However, it is preferred that an alkali metal compound be used as a stabilizer. Also, one may add titanium oxide as a matting agent as well as other additives without adverse influence on the effect of this invention. Said polyester is spun using a conventional method. There is no special limitation on the spinning conditions and spinning method. Several methods, either in a single step or in several steps, may be adopted for drawing. In one method, drawing is carried out immediately after the spinning operation. In another method, the undrawn yarns are first wound up, and then drawing is performed. In the last step of drawing, or after completion of drawing, it is preferred that heat setting be performed at 120-160°C.

For example, when a hot roller, or a hot plate type drawing machine is used, in the last modification step of drawing, the hot plate temperature is set in the range of 120-160°C.

The long fiber yarns prepared in this way may be subject to a false twisting treatment before the dyeing step or knitting/weaving step of operation. In this case, the false twisting temperature is preferably in the range of 180-180°C [sic]. In this case, the fast feed ratio is preferably about 1-4% on the overfeed side. As needed, the long fiber yarns or the processed yarns may be dyed in the yarn state. In this case, the dyeing temperature should be in the range of 110-180°C when a disperse dye is in use, and it should be in the range of 105-120°C when a basic dye is in use. The long fiber yarns may be used alone for knitting/weaving or mixed with long fiber yarns or spun yarns of other synthetic fibers or natural fibers for knitting/weaving. When they are used as a mixture, it is effective to align them or to twist them with each other. Also, they may be used as a mixture in the false twisting step of operation. In this case, the proportion of the polyester fiber yarns should be at least 20% in the total yarns used in this invention. Also, the long fiber yarns or mixed yarns may be subject to force twisting. In this case, there is no special limitation on the processing conditions.

The long fiber yarns or mixed yarns are fed to a knitting process, such as circular knitting, warp knitting, weft knitting, etc., or weaving process. The basis weight, knit/woven tissue, density, etc., are determined corresponding to the final purpose using a conventional method. Also, when fiber yarns without dyeing are used for knitting/weaving, they are first

treated for dyeing. In this case, the dyeing conditions are the same as those for dyeing said yarns. In particular, when a basic dye is used, it is possible to obtain a vivid hue or whiteness not available for the knit/woven fabric prepared using the conventional polyester fiber yarns. For the obtained knit/woven fabric, in order to realize stable dimensions, heat treatment is carried out. However, one may also perform heat treatment after cutting and sewing in the weft knitting field.

According to this invention, said heat treatment condition is a requirement. Said copolymerized polyester has a melting point that can be predicted from the conventional copolymers prepared using the copolymer components individually and a crystallinity so low as cannot be predicted at all. This property acts to provide an appropriate change and fixing for the hand of the knit/woven fabric by means of an appropriate heat treatment. That is, as explained in the above, when the knit/woven fabric prepared partially or entirely using said polyester long fiber yarns or mixed yarns is subject to heat treatment setting as wet heat treatment at 90-120°C or as dry heat treatment at 180-150°C in the final finishing step, it is easy to change and fix the hand. Consequently, compared with the knit/woven fabric prepared using the conventional polyester-based fiber yarns, the obtained knit/woven fabric has much better hand. There is no special limitation on the heat setting method. Usually, it is carried out by means of injection of steam under ambient pressure or in boiling water. It is preferred that the steam be heated to 100°C or higher temperature before injection. Also, one may carry out napping for the knit/woven fabric before or after said heat treatment step.

The knit/woven fabric prepared using polyester long fiber yarns prepared using the aforementioned method allows heat treatment setting at a low temperature, that is, at 180-150°C for dry heat treatment, or at 90-120°C for wet heat treatment, something impossible for the knit/woven fabric prepared using conventional polyester yarns. In particular, because the knit/woven fabric of this invention allows low-temperature wet heat treatment setting, which is impossible for the conventional polyester knit/woven fabric, it can prevent hardening of the polyester knit/woven fabric during heat treatment, it has a good hand, and it can reduce energy consumption, a topic that has attracted more and more attention in recent years.

Application Example 1

Polyethylene terephthalate prepared by copolymerization of 11 mol% of isophthalic acid component and 1.6 mol% of 5-sodium sulfoisophthalic acid was spun at 285°C, followed by drawing for 8.6-fold at a hot roller temperature of 75°C and a hot plate temperature of 140°C, forming drawn yarns with a filament denier of 8. After false twisting of the yarns at 150°C, dyeing was performed at 110°C. The dyed yarns were merged to 800 denier, followed by weft knitting to form a vest. The vest was stretched 4% in the weft direction as it was loaded on a frame for setting with steam using a steam iron at 100°C for 10 sec. Even after the frame was

removed, the vest was still in a completely set state, with a perfect knit pattern. After 5 rounds of washing according to JIS-L-0844, the shrinkage rate was found to be 8% or lower, and there is no problem for practical application. Also, there was no change in the hand after washing.

Application Example 2

Polyethylene terephthalate prepared by copolymerization of 10 mol% isophthalic acid component and 1.6 mol% 5-sodium sulfoisophthalic acid was spun at 285°C using a conventional method, followed by drawing for 8.6-fold at a hot roller temperature of 75°C and a hot plate temperature of 140°C, forming drawn yarns with a filament denier of 8, filament count of 48, and a total denier of 150 denier. The drawn yarns have a strength of 4.0 g/d, and an elongation of 28%. After false twisting of the yarns at 150°C, dyeing was performed at 110°C. The dyed yarns were twisted with 60-count double cotton yarns that had been dyed to the same color, followed by weft knitting to form a vest. The vest was stretched 2% in the weft direction as it was loaded on a frame for setting with steam using a steam iron at 100°C for 10 sec. Even after the frame was removed, the vest was still in a completely set state. The obtained vest has a very soft hand. After 5 rounds of washing according to JIS-L-0844, the shrinkage rate was found to be 8% or lower. Also, there was no change in hand after washing.

Comparative example

A vest was prepared using the same method in Application Example 1, except that polyethylene terephthalate was used in place of the copolymer of polyethylene terephthalate used in Application Example 1. It was found that dyeing of the vest is insufficient, setting is not perfect, unevenness remains in the knitting pattern, the hand is hard, and the product has a poor quality.